

# 芦生からの便り 第6回



こんにちは！芦生研究林です。  
もう、今年も4月になりました、早いものです。  
皆さんの周りには、春の香りが満ち満ちていることと思います。  
芦生は、まだまだ本格的な春とは言えないのですが、それでも春は確実に訪れています。

今回は、芦生の宿舎のお話です。

芦生の今の宿舎は、私が20代に住んだ以前（昭和40年代）に建てられたものです。ですから、今、私は20代の時と同じ宿舎に住んでいることになります。その年月の中で、台風で、由良川の水が宿舎に迫った時もありました。“あの豪雪”もありました。最近では、“2年前の大雪”もありました。今、改めて思い返してみると、そういった数々の悪条件を乗り越えて、宿舎は、そこに住む者に寄り添い、よく頑張ってきてくれたと思います。その頑張りは、私の胸を熱くするのです。

が、いかんせん、設備も古く、すきま風が入る木造の宿舎は寒い、という、現実が一。冬場は、宿舎の中も寒いのです。建物自体が呼吸している、たとえば、聞こえはいいのですが…。

いやいや、ここは、例の「ポジティブシンキング」で、いきましょう！よく、“灯油ストーブを点けたらハイ！換気”と言われますが、この宿舎では“自然換気”が出来るので？、その必要も少なくて済むのが利点です、たとえばおわかりになっていただけるでしょうか。

その事例を一つ。昔の話で恐縮ですが。朝起きて台所へ行った家内が、一言。「タベ、飲んだジュースに入れた氷が、コップにそのまま残っているわ」芦生といっても、台所は室内にあります。ストーブを消した後とはいえ、「それはないで」と言ったら、氷はちゃんとコップの中にありました。そんな宿舎達は、その当時のままで現在も使われています。

それから、ん十年たった私は、使わない台所のドアや床下収納庫などから入ってくるすきま風をアルミの防寒シートで防ぐ毎日です。やはり、年には勝てませんな。

そんな年季の入った宿舎に、1月、一足早い春がやって来ました！なんと、職員宿舎全部に3月末迄にシャワーを設置してもらえる事になったのです。そして、この3年間で 全部の風呂もユニットバスに替えてくれるのだそうです。芦生に暮らす職員の最も希望していたことの一つが叶うのですから、職員一同、こんな嬉しいことはありません。だから、今年の春は早くやって来たのです。寒さの中、風呂に入ることも一苦労でしたが、ユニットバスになれば、その寒さも軽減されるのではないかと思います。また、今まで、シャワーがなかったので、職員は山仕事から帰って来ても、それから風呂を沸かしてでなければ、汗も汚れも落とせませんでした。それって、疲れた体には面倒なことでした。それで、夏場に欲しいものNO.1だったのです。もう都会では当たり前になっていることが、芦生では嬉しさになります。これも、「芦生にいるからこそ、の“幸福感”」の一つかもしれません。

シャワーとユニットバスの設置に対して奔走して下さった皆さん、ありがとうございました。この場をお借りして、職員一同に代わりお礼申します。

アイデアは困った時に出てくる、と言います。もしかしたら、芦生の生活の中でとてつもない大きなアイデアが産まれてくるかも、です。芦生の生活は、それ位、ミステリアス？！私達芦生の職員も、日々の生活の中で、アイデア合戦を楽しむことにします。皆さんも、一緒にどうですか？

(文：芝 正己)



宿舎の間2007暖冬



宿舎の全風景冬2006大雪



宿舎全風景夏



宿舎夏



## 著者プロフィール

芝 正己 (しば まさみ)

京都大学フィールド科学教育研究センター(森林環境情報学研究分野 准教授)所属。京都大学および宮崎大学・三重大学を経て1997年10月より現在に至る。

専門は、森林利用学、森林管理・情報学。

これまでの主な研究テーマは、

- ① 森林の経営基盤整備計画・評価法に関する研究、
- ② 持続可能な森林管理と森林認証制度に関する研究、
- ③ 森林の資源利用と保全計画に関する研究。